

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：看護学科

資格：准教授

氏名：心光 世津子

研究分野	研究内容のキーワード
精神看護学、医療社会学	精神看護学、看護教育学、セルフ・ヘルプ、医療社会学・障害学、社会的相互作用・対人関係
学位	最終学歴
博士（人間科学）	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 精神看護学実習へのICF(国際生活機能分類)の視点導入(大阪大学)	2008年04月～2012年03月	これまで、ICFの精神医療保健福祉への活用が期待されてきたが、臨床への具体的利用方法が示されず、その導入は進んでいなかった。そこで、担当科目において、独自に、看護過程展開にICFの視点活用を促進する取り組みを行った。学生の学習状況を分析・評価しながら、学内演習、実習教材等の改訂をした。
2 作成した教科書、教材		
1. 野中浩幸, 乾富士男, 心光世津子編『必携！ 精神看護学実習ポケットブック』（精神看護出版）	2010年09月	身体的なケアを伴わないことの多い精神看護実習では、学生が何をどのような視点で学べばよいか、何を援助と考えればよいか戸惑うことが多い。そのため精神看護学実習指導に携わる大学教員、臨床の実習指導者で本書を執筆、編纂した。
2. 精神看護学実習 実習記録、看護過程自己評価表（大阪大学）	2009年10月	ICF(国際生活機能分類)の視点を取り入れ、3か年をかけて独自に実習記録と看護過程自己評価表を作成した。導入前後で学生の学習状況や課題について分析・評価しながらさらに改訂を行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 看護学生への実習指導および臨床指導者への実習指導支援	2013年04月～2015年03月	国立精神・神経医療研究センター病院看護部の実習指導者委員会の委員として、実習調整、院内研修開催、所属部署での実習指導、臨床指導者への助言・サポートを行った。
2. 現任看護師を対象とした研究指導および講義	2012年04月～2015年03月	国立精神・神経医療研究センター病院看護部の研究推進部会メンバーとして、研究を希望する看護師に対して講義、研修調整および個別研究指導を行った。
4 その他		
1. 平成28年度兵庫県専任教員養成講習会「研究」	2016年07月	兵庫県看護協会による依頼にて講義を担当した（分担）。
2. 依頼講演「精神看護学実習にICFの視点を導入する2～学生に視点をどう伝えていくか～」	2015年09月	8つの東京都立看護学校の精神看護学担当教員により実施されている精神授業研究の学習会にて、左記講演を行った。
3. 依頼講義「誰でもはじめられる看護研究 ～看護研究を始める「コツ」と「すすめ方」がわかる～」(實田穂・心光世津子)	2015年05月	日本精神科看護協会兵庫県支部研修会にて現任の看護師を対象に左記講義を行った。
4. 依頼講演「精神看護学実習にICFの視点を導入する～とりくみと学んだこと～」	2014年11月	8つの東京都立看護学校の精神看護学担当教員により実施されている精神授業研究の学習会にて、左記講演と意見交換会を行った。
5. 依頼講義「認知症を持つ方へのケア」	2014年02月	介護老人保健施設武蔵野徳洲苑において、介護福祉士を対象とした実務研修プログラムとして左記講義を行った。
6. 依頼講義「臨床における看護研究」	2009年12月	日本精神科看護技術協会研修会『看護管理 主任・師長編』の中のプログラムとして、現任の看護職者を対象に左記講義を行った。
7. 依頼講演「Self-help Group for Alcohol Addictions in Japan: The Danshukai Program」	2004年10月	トロント大学とCentre for Addiction and Mental Healthとの共同プログラム「Culture, Community and Health 2004 Clinical Rounds and Research Colloquia」にて左記講演を行った。（※カナダ留学中）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. WRAP(元気回復行動プラン)ファシリテーター	2015年05月	
2. 保健婦免許	2000年04月	
3. 看護婦免許	2000年04月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 精神科看護師、精神障害の当事者(本人、家族)に対するインタビュー調査	2012年04月～2015年03月	関東、近畿地方を中心に、精神科(病棟、外来、デイケア、訪問看護を含む)に勤務する看護師や地域に暮らす精神障害者・家族に対するインタビュー調査を行った。
2. アメリカ・ダラスにおける飲酒運転裁判、保護観察プログラム、飲酒運転被害者の会MADDの参与観察	2008年09月	MADD JAPAN(飲酒運転事故被害者の会) 飯田和代(当時)代表の協力を得て、アメリカ・テキサス州ダラス市の飲酒運転保護観察プログラム、実際の飲酒運転裁判の観察を行った。
3. カナダ・トロントにおけるAlcoholics Anonymousの参与観察、インタビュー調査	2004年07月～2005年07月	カナダ・オンタリオ州トロント市にあるCentre for Addiction and Mental Health(嗜癮・精神医療センター)に滞在し、市内のAlcoholics Anonymous(アルコール依存症者のセルフヘルプ・グループ)の参与観察およびインタビュー調査を行った。同市の薬物依存のセルフヘルプグループも参与観察した。
4. 断酒会(日本断酒連盟)、AA(Alcoholics Anonymous)における参与観察およびインタビュー調査	1999年04月～2009年03月	近畿、中国地方を中心に、アルコール依存症者のセルフヘルプ・グループの参与観察および会員・家族に対するインタビュー調査を行った。
4 その他		
1. 依頼講演「『仲間とともに』ということ ―北米の自助グループでの学びから」	2005年05月	吹田市断酒会より依頼を受け、「吹田市断酒会創立30周年記念大会記念講演」(参加者約600名)として吹田市文化会館メシアター大ホールにて講演を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 必携! 精神看護学実習ポケットブック 増補版	共	2014年09月	精神看護出版	編集:野中浩幸、乾富士男、心光世津子 共著者名:野中浩幸、乾富士男、心光世津子、益田ゆかり、後藤文人、後藤恵、竹内公花、村上茂、川田美和、矢野優子、石東佳子
2. エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー	共	2013年12月	日本看護協会出版会	担当部分:「第V章 量的研究のシステムティックレビュー」(p. 59-73)、「質的研究のシステムティックレビュー」(p. 75-91) 編者:牧本清子 共著者名:牧本清子、近藤暁子、今野理恵、心光世津子、諏訪敏幸、樋上容子、福録恵子、山川みやえ
3. 必携! 精神看護学実習ポケットブック	共	2010年09月	精神看護出版	担当部分:「1章看護過程のポイント」(p. 32-49, 53-55, 60-64, 81-83, 90-98)、「2章精神看護学実習で遭遇する場面」(p. 136-139) (※執筆箇所が多いため節タイトルは割愛) 編集:野中浩幸、乾富士男、心光世津子 共著者名:野中浩幸、乾富士男、心光世津子、益田ゆかり、後藤文人、後藤恵、竹内公花、村上茂、川田美和、矢野優子、石東佳子
4. 医療化のポリティクス ―近代医療の地平を問う	共	2006年09月	学文社	担当部分:「6章アルコール依存症と医療化」(p. 115-127) 監修:森田洋司 編集:森田洋司、進藤雄三 共著者名:石川憲彦、市野川容孝、井上真理子、上野加代子、小村富美子、工藤宏司、黒田浩一郎、Peter Conrad、斉藤環、佐々木洋子、佐藤哲彦、心光世津子、進藤雄三、田原範子、中川輝彦、松本邦枝、的場智子、森田洋司
5. 臨床文化の社会学―職業・技術・標準化	共	2005年02月	昭和堂	担当部分:「10章アルコール医療とセルフヘルプ・グループ」(p. 269-295) 編集:山中浩司 共著者名:大村英昭、岡尾将秀、心光世津子、額賀淑郎、橋本満、樋口昌彦、保田直美、山田陽子、山中浩司

2 学位論文				
1. 当事者の語りと当事者性の形成―断酒会会員の自己変容過程の分析	単	2009年03月	大阪大学大学院人間科学研究科 博士論文	博士(人間科学)
2. 医療と非医療のあいだ ―アルコールリズムからの「回復」とその戦略―	単	2003年03月	大阪大学大学院人間科学研究科 修士論文	修士(人間科学)

3 学術論文				
1. 地域に暮らす精神障害者の家族の捉える「回復」に関する一考察	単	2016年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 1: 63-68	
2. 日本における統合失調症患者家族の統柄ごとの精神的負担の特徴―過去10年間に刊行された文献の内容分析から―	共	2013年03月	大阪大学看護学雑誌19(1): 9-15	平祥子、心光世津子、遠藤淑美
3. 精神看護学実習のためのICFの視点を取り入れた看護過程自己評価表の開発	共	2010年06月	日本精神保健看護学会誌19(1): 74-83	心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 保健医療分野における当事者の語りと当事者性の形成—断酒会会員の語りと当事者性に焦点を当てて—	単	2010年03月	大阪大学大学院人間科学研究科紀要36: 59-80	
5. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第3報)—実習記録改訂前後の学生による自己評価の年度別比較—	共	2010年03月	大阪大学看護学雑誌16(1): 49-58	心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
6. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第4報)—自己評価表にみる実習記録改訂前後の学生の苦手傾向の変化と教育課題—	共	2010年02月	日本看護学会論文集-看護教育-40: 257-259	心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
7. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第1報)—自己評価表の分析にみる精神看護学実習受講生の苦手傾向と教育課題—	共	2009年03月	大阪大学看護学雑誌15(1): 1-8	心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
8. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究 第2報—自己評価表自由記述にみる学生の傾向と教育課題—	共	2009年03月	大阪大学看護学雑誌15(1): 9-18	遠藤淑美、心光世津子、諏訪さゆり
9. 精神科病棟における居室性を兼ね備えた保護室のメリットとデメリット	共	2008年03月	大阪大学看護学雑誌14(1): 11-19	篠原有美、遠藤淑美、心光世津子
10. アルコール依存症者のライフストーリーにみる我が国の飲酒規範	単	2008年03月	保健医療社会学論集18(2): 95-107	
11. 断酒に至る認識変容過程—断酒会会員を例として—	単	2002年06月	看護研究35(3): 239-249	
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. The meanings of recovery perceived by people living with mental illness in community and their families	単	2016年03月	19th East Asian Forum of Nursing Scholars (Chiba: Makuhari Messe, Japan)	
2. What facilitates recovery from mental illness? Views of psychiatric nurses and people living with mental illness in Japan	単	2015年02月	18th East Asian Forum of Nursing Scholars (Taipei: NTUH International Convention Center, Taiwan)	
3. 地域に暮らす精神障害者の捉える「回復」を維持・促進するもの	単	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 (名古屋国際会議場)	
4. 精神科看護師の捉える「回復」の多様性とその含意	単	2014年05月	第40回日本保健医療社会学会大会 (東北大学)	
5. The meaning of "recovery" from severe mental illness(SMI) perceived by the people with SMI in Japan	単	2014年02月	17th East Asian Forum of Nursing Scholars (Manila: Century Park Hotel, Philippines)	
6. 精神科看護師における「回復」像の形成—形成に影響を与える要因に焦点をあてて—	単	2013年12月	第33回日本看護科学学会学術集会 (大阪国際会議場)	
7. The meaning of "recovery" from severe mental illness for psychiatric nurses in Japan	単	2013年10月	The Joanna Briggs Institute 2013 International Convention (Adelaide: InterContinental Adelaide, Australia)	
8. Why males have higher suicide rate in most countries? A review of quantitative research	共	2013年10月	The Joanna Briggs Institute 2013 International Convention (Adelaide: InterContinental Adelaide, Australia)	共同発表者: Shimimitsu S、Hirano T、Yamanaka H
9. Effectiveness of non-pharmacological approaches for patients with frontotemporal dementia: A systematic review	共	2012年11月	8th Biennial Joanna Briggs Institute International Convention 2012 (Chiang Mai: The Empress Hotel, Thailand)	Yamakawa M、Shimimitsu S、Makimoto K
10. Protocol for A Qualitative Study	単	2012年11月	8th Biennial Joanna Briggs Institute International Convention 2012 (Chiang Mai: The Empress Hotel, Thailand)	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
dy Exploring Meaning of Recovery from Severe Mental Illness (SMI) for the people living with SMI and caregivers in Japan			riggs Institute International Convention 2012 (Chiang Mai: The Empress Hotel, Thailand)	
11. Cognitive behavioural therapy (CBT) in managing positive symptoms of schizophrenia in Japan: A literature review	共	2012年02月	15th East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore: Furama Riverfront Hotel, Singapore)	共同発表者: Akita T, <u>Shimimitsu S</u>
12. Extant data analysis of health indices in east Asian countries	共	2012年02月	15th East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore: Furama Riverfront Hotel, Singapore)	共同発表者: Makimoto K, Ito M, Takeuchi S, <u>Shimimitsu S</u>
13. Studies on recovery from severe mental illness in Japan: A literature review	単	2012年02月	15th East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore: Furama Riverfront Hotel, Singapore)	
14. 我が国における統合失調症陽性症状に対する認知療法についての研究動向	共	2011年12月	第31回日本看護科学学会学術集会 (高知市文化プラザかるぼーと)	共同発表者: 秋田友美、 <u>心光世津子</u>
15. Literature review on elderly health problems in East Asian countries	共	2011年11月	Joanna Briggs Institute International Convention 2011 (Adelaide: National Wine Centre of Australia, Australia)	共同発表者: Ito M, Takeuchi S, <u>Shimimitsu S</u> , Yamakawa M, Makimoto K
16. 精神看護学実習における学生の形成的自己評価と気づきの特徴: 複数回実施で評価を下げた項目のない者の場合	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会学術集会 (札幌市産業振興センター)	共同発表者: <u>心光世津子</u> 、遠藤淑美、諏訪さゆり
17. 'Recovery' perceived by people living with severe mental illness in community settings: A systematic review and meta-synthesis	共	2010年09月	7th Biennial Joanna Briggs Colloquium (Chicago: Sheraton Chicago Hotel&Towers, US)	共同発表者: <u>Shimimitsu S</u> 、Kumazaki K, Uchite A
18. 断酒会会員の語りにおけるコミットメントの差異化と包摂	単	2010年05月	第36回日本保健医療社会学会大会 (山口県立大学)	
19. アルコール依存症者の配偶者の思いとその変化—断酒会会員の配偶者へのインタビュー調査から—	共	2009年11月	第29回日本看護科学学会学術集会 (幕張国際会議場)	共同発表者: 山本有香、 <u>心光世津子</u> 、遠藤淑美
20. うつ病患者の回復への転機とその心理過程—うつ病者の手記の分析—	共	2009年11月	第29回日本看護科学学会学術集会 (幕張国際会議場)	共同発表者: 西山直毅、遠藤淑美、 <u>心光世津子</u>
21. 再構成法によって看護学生に生じる心理的变化とそれを自己分析の視点とすることの有用性	共	2009年11月	第29回日本看護科学学会学術集会 (幕張国際会議場)	共同発表者: 村松知絵、遠藤淑美、 <u>心光世津子</u>
22. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第5報)—実習記録改訂前後における学生の学習状況の変化—	共	2009年11月	第29回日本看護科学学会学術集会 (幕張国際会議場)	共同発表者: <u>心光世津子</u> 、遠藤淑美、諏訪さゆり
23. Reflections by Students Who Lowered Self-evaluation during Psychiatric Nursing Practicum: An Analysis of Self-evaluation Sheets as Formative Tools	共	2009年09月	The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Kobe:International Exhibition Hall)	共同発表者: <u>Shimimitsu S</u> 、Endo Y, Suwa S
24. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第4報)—自己評価表にみる実習記録改訂後の学生の苦手傾向の変化と教育課題—	共	2009年08月	第40回日本看護学会—看護教育—学術集会 (岡山コンベンションセンター)	共同発表者: <u>心光世津子</u> 、遠藤淑美、諏訪さゆり
25. What Can Nurses Do to Prevent Repetitive DUI/DWI in Japan? From Qualitative Analysis on Drunk Driving Situations in the Pathways to Alcoholism	単	2009年03月	The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars (Tokyo: St Luke's College of Nursing)	
26. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第2報)	共	2008年12月	第28回日本看護科学学会学術集会 (福岡国際会議場)	共同発表者: 遠藤淑美、 <u>心光世津子</u> 、諏訪さゆり

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
27. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第3報)－看護過程自己評価表の評価項目の再検討－	共	2008年12月	第28回日本看護科学学会学術集会 (福岡国際会議場)	共同発表者：心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
28. 飲酒運転にいたる心理・社会的状況－断酒会会員へのインタビュー調査から－	単	2008年06月	日本交通心理学会第37回大会 (川崎医療福祉大学)	
29. 精神看護学実習へのICFの視点導入に向けた研究(第1報)－看護過程自己評価表にみる学生の苦手項目の傾向と教育課題－	共	2008年06月	日本精神保健看護学会第18回学術集会 (東京女子医科大学)	共同発表者：心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
30. 病棟看護におけるセルフヘルプ・グループの意義：アルコール依存症看護を例として	単	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会 (神戸国際展示場・神戸国際会議場)	
31. アルコール依存症のラベリング過程における自己呈示	単	2006年12月	日本保健医療社会学会第31回大会 (立教大学)	
32. 当事者の集う要因としての「医療」－断酒会会員へのインタビュー調査から－	単	2004年05月	第55回関西社会学会大会 (佛光大学)	
33. 医療者－患者関係とセルフヘルプ・グループ－アルコール依存症の治療場面を例として－	単	2003年10月	日本社会学会第76回大会 (中央大学)	
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 実践レポート「精神看護学実習にICF(国際生活機能分類)の視点を導入する試み」	共	2013年04月	精神科看護39(5)：41-49	共著者名：心光世津子、遠藤淑美、諏訪さゆり
2. 交流集会「臨床における研究・研究における臨床・橋渡し－エビデンスに基づく看護の推進と課題－」	共	2012年12月	第32回日本看護科学学会学術集会 (東京国際会議場)	共同発表者：心光世津子、山川みやえ、坂本岳之、伊藤美樹子、牧本清子
3. JCEBPの活動からわが国の研究と研究者育成の質保証を考える	共	2012年01月	看護研究45(1)：47-52	共著者名：伊藤美樹子、山川みやえ、心光世津子、竹内佐智恵
4. 量的研究のシステマティックレビュー	共	2011年06月	インターナショナルナーシングレビュー34(4)：32-39	共著者名：諏訪敏幸、心光世津子、山川みやえ
5. 質的研究のシステマティックレビュー	単	2011年06月	インターナショナルナーシングレビュー34(4)：40-47	
6. ラウンドテーブル・ディスカッション『質的研究に取り組む研究者の経験』	共	2011年05月	第37回日本保健医療社会学会大会 (大阪大学)	座長：北尾良太 共同発表者：心光世津子、中川威、河野由枝、石田絵美子 指定討論者：野口裕二
7. 臨床と研究をつなぐネットワーク：The Japan Centre for Evidence Based Practiceの活動	共	2010年11月	精神科看護37(219)：52-53	共著者名：心光世津子、伊藤美樹子、山川みやえ、福録恵子、牧本清子
8. 繰り返される飲酒運転に潜むアルコール依存症の発見と介入－アメリカ・テキサス州における保護観察対象者への対応に学ぶもの－	単	2009年06月	交通安全教育44(7)：6-15	
9. “アルコール依存症になる”体験談をいかに語るか－『保健医療』しようとする私と『社会学』しようとする私の思考と志向	単	2008年10月	日本保健医療社会学会第198回定例研究会(関西地区例会) (キャンパスプラザ京都)	
10. 書評「ロバート・F・マーフィー著『ボディ・サイレント』(辻新一訳 新宿書房 1997)」	単	2004年03月	保健医療社会学論集14(2)：67-68	
11. ラウンドテーブルディスカッション『患者会・家族会・セルフヘルプグループの社会学は、病いと医療の何を明らかにすることができるのか、何を指すべきか?』「断酒会会員にとっての医療」	共	2003年05月	第29回日本保健医療社会学会大会 (龍谷大学)	座長：進藤雄三、杉山克己 登壇者：的場智子、筒井琢磨、心光世津子
12. 書評「de Laine, Marline: Field work, Participation and Practice: Ethics and Dilemmas in Qua	単	2002年03月	年報人間科学第二分冊 (大阪大学人間科学部) 23: 411-415	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
litative Research, Sage Publications, UK. 2000.]				
6. 研究費の取得状況				
1. ポスト工業社会における男性の健康と医療化	共	2012年04月～2015年03月	文部科学省平成24年度～26年度科学研究費補助金(基盤研究(B))	研究代表者：山中浩司 共同研究者：大村英昭、伊藤公雄、石蔵文信、坂本俊生、心光世津子
2. 日本における精神障害からの「リカバリー」の包括的理解と支援のための実証的基礎研究	単	2011年04月～2014年03月	文部科学省平成23年度～25年度科学研究費補助(若手研究(B))	研究代表者
3. 超領域アプローチによる東アジアの高齢者ケアシステムの構築	共	2010年08月～2012年03月	大阪大学グローバルコラボレーションセンター平成22・23年大阪大学GLOCOL共同研究(学内連携)	研究代表者：牧本清子 共同研究者：伊藤美樹子、山川みやえ、福録恵子、心光世津子
4. 「生き方死に方を考える社会フォーラム」形成のための社会実験	共	2010年04月～2013年03月	文部科学省平成22年度～24年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)	研究代表者：山中浩司 共同研究者：大村英昭、伊藤公雄、石蔵文信、坂本俊生、渡辺太、古川岳、心光世津子
5. 精神看護学実習へのICF(国際生活機能分類)の視点導入に向けた実習教材開発	単	2008年04月～2010年03月	日本科学協会平成20年度・21年度笹川科学研究助成金(実践研究部門)	研究代表者
6. 飲酒運転抑止における看護師の寄与に関する研究	単	2007年10月～2009年03月	文部科学省平成19・20年度科学研究費補助金(若手研究スタートアップ)	研究代表者
7. 臨床文化の行方—医療の標準化と臨床文化—	共	2004年04月～2007年03月	文部科学省平成16年～18年度科学研究費補助金(基盤研究(C))	研究代表者：山中浩司 研究分担者：橋本満、心光世津子
8. 当事者性の社会学—自助=互助成立のメカニズム	単	2003年04月～2006年03月	文部科学省・日本学術振興会平成15～17年度科学研究費補助金(特別研究員奨励費)	研究代表者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年04月～現在	日本保健医療社会学会編集委員会査読委員
2. 2015年10月～現在	日本看護科学学会 和文誌専任査読委員
3. 2015年10月～2016年09月	第15回日本アディクション看護学会学術集会 実行委員長
4. 2015年08月～現在	Reviewer, The JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports
5. 2015年04月～現在	大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻 招聘准教授
6. 2012年04月～現在	Research Associate, Japan Center for Evidence Based Practice (Affiliation Center of the Joanna Briggs Institute)
7. 2012年04月～2015年03月	大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻 招聘研究員
8. 2010年08月～2012年03月	Co-Assistant Director, Japan Center for Evidence Based Practice (Affiliation Center of the Joanna Briggs Institute)
9. 2010年03月～2011年05月	第37回 日本保健医療社会学会大会 事務局
10. 2009年04月～2012年03月	大阪大学医療人文学研究会 事務局
11. 2006年04月～2006年12月	第26回 日本看護科学学会学術集会 実行委員